

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H26年度 局施策 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)		
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期 目標	金額 (千円)	職位					人数	
II-1-(4)-④ 総合的な災害対策の推進	1	海岸（高潮）事業	整備保全課	災害に強い都市づくりの一環として、高潮等の災害から市民の生命や財産を守るために、臨海部において護岸整備を行う。	新門司北地区北護岸整備による後背地防護面積	—	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	防護面積 51ha (H31年度)	継続	65,000	42,600	減額	5,650	課長	0.10 人	順調	災害対策の重要性の高まりを受け、引き続き護岸整備を進め、早期完成を目指す。	順調	高潮等の災害から市民の生命や財産を守るため、引き続き護岸の整備を進め、早期完成を目指す。
							実績	—	—										係長				
					白野江地区護岸整備による後背地防護面積	—	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	防護面積 14ha (H31年度)						職員	0.40 人				
II-1-(4)-⑤ 公共施設などの耐震化の推進	2	国直轄事業負担金（耐震岸壁整備）	計画課	大規模震災時にも物資等の海上輸送機能を確保するため、耐震強化岸壁を整備する。	臨海部防災拠点を構成する耐震化岸壁の整備（新門司南地区）	—	目標	単年度目標なし	単年度目標なし	単年度目標なし	単年度目標なし	—	継続	40,000	10,000	減額	2,900	課長	0.10 人	順調	全体計画5箇所のうち、3箇所目の岸壁整備に係る調査設計を平成27年度・28年度に行う予定。国と連絡調整を密に行い、事業の進捗を図る。	順調	本市では耐震強化岸壁を5箇所に整備する計画である。現在、砂津地区、新門司南地区では整備が完了している。残る3箇所のうち西海岸地区、ひびきCTにおいては、国が事業主体となることから、国との連携を密にし、事業の進捗を図る。
							実績	—	—										係長				
					臨海部防災拠点を構成する耐震化岸壁の整備（西海岸地区）	—	目標	単年度目標なし	単年度目標なし	単年度目標なし	単年度目標なし							職員	0.10 人				
III-1-(2)-③ 市民に親しまれる水際線・農山村風景づくり	3	新・海辺のマスタープラン推進事業	開発課	H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」における2つの目標（「利用できる海辺を増やす」「親しまれる度合いを高める」）を実現するための様々な取り組みについて、その検証及びプランの進捗管理を行う。	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合	35.6% (H23年度)	目標	平成24年度 (37.5%) 比増	平成25年度 比増	平成26年度 比増	平成27年度 比増	75% (H32年度)	継続	1,642	1,563	維持	6,940	課長	0.06 人	順調	「新・海辺のマスタープラン」は、社会経済情勢の変化や市民意識の変化を踏まえて計画の見直しを行う必要があるため、市民アンケートを実施し、ニーズを把握する。	順調	市民に親しまれる水際線づくりでは、さまざまなニーズに応える多様な水際線の利用を目指している。そのために市民ニーズの把握や市民に安らぎや憩いの空間を提供する緑地の整備を進める。
							実績	33.6 %	52.7 %									係長	0.25 人				
							達成率	89.6 %	156.8 %									職員	0.50 人				
IV-1-(2)-① 次世代自動車産業拠点の形成	5	企業誘致活動事業	整備保全課	水際線において、海辺の眺望や親水空間を備えた緑地を整備することにより、市民に安らぎや憩いの空間を提供する。	市民が海辺と親しみ憩うための緑地整備	—	目標	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	3地区の緑地整備 (H33年度)	継続	155,400	133,000	減額	3,650	課長	0.10 人	順調	市民に安らぎや憩いの親水空間を提供するため、引き続き緑地整備を行う。	順調	
							実績	—	—									係長	0.10 人				
							達成率	— %	— %									職員	0.20 人				
IV-1-(2)-① 次世代自動車産業拠点の形成	5	企業誘致活動事業	立地促進課	臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行う。	臨海部産業用地への企業立地件数（平成26年度以降は平成26年度からの累計）	4件 (H26年度)	目標	34 件	4 件	8 件	12 件	20件 (H26~30年度)	継続	9,045	8,710	維持	28,700	課長	0.30 人	順調	目標は順調に達成できているものの、現状に満足することなく、「臨海部産業用地・分譲推進本部」にて検討された戦略的な企業誘致活動を継続し、更に多くの企業誘致を推進する。	順調	三セク債発行時において想定した（年間12億円）土地売却収入を上回る分譲の推進、企業の立地に取り組んでいく。
							実績	23 件	4 件									係長	1.10 人				
							達成率	67.6 %	100.0 %									職員	1.90 人				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度	H28年度	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度	H28年度に向けて強化・見直した内容（課題に対する改善方法等）	H26年度	H28年度に向けて強化・見直した内容（課題に対する改善方法等）				
					指標名等	現状値（基準値）	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度		中期目標	予算額（千円）		予算額（千円）	金額（千円）	職位	人数		事業評価		局施策評価			
IV-1-(3)-① 成長性、経済波及効果の高い産業の重点的誘致	6	響灘洋上風力発電拠点化推進事業	立地促進課	港湾空港局では、響灘地区のポテンシャルを活かし、平成22年度より風力発電関連産業の集積を図る『グリーンエネルギーポートひびき』事業を進めており、本事業の更なる推進にあたっては、今後拡大が見込まれる洋上風力発電に対応した環境整備が急務である。そこで、響灘洋上ウインドファームの形成をインセンティブに関連産業の集積を進め、国内における“風力発電関連産業の総合拠点”の形成を目指す。	風力発電関連施設の立地	—	目標	実績	達成率	洋上風力関連施設の適地設定	洋上風力関連施設の適地設定	公募実施	—	継続	10,000	5,000	減額	19,050	課長	0.20人	順調	平成28年度実施予定の公募に向けての具体的事務の強化、見直しを行う。また、引き続き関係者等との連携を図りながら、響灘地区での更なる産業集積を目指して事業を推進していく。	順調	響灘洋上風力発電拠点化推進事業の推進にあたっては、引き続き関係者等との連携を図りながら、響灘地区での更なる産業集積を目指す。また、戦略的な企業誘致活動を継続し、更に多くの企業誘致を推進する。	
	7	企業誘致活動事業	立地促進課	臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行う。	臨海部産業用地への企業立地件数（平成26年度以降は平成26年度からの累計）	4件（H26年度）	目標	実績	達成率	34件	4件	8件	12件	20件（H26～30年度）	継続	9,045	8,710	維持	28,700	課長					0.30人
IV-4-(3)-① 国内外からの観光の推進	8	クルーズ船の誘致	総務課	コンベンションへの出展や、キーパーソンの招へい、代理店や船社への情報提供による、国内外のクルーズ船の寄港を促進する。また、クルーズ船寄港時にはおもてなしイベント等を展開する。	クルーズ船の寄港数	年間寄港回数：1～5回（H22～27年度）	目標	実績	達成率	3回	2回	5回	10回	20回（H32年度）	拡大	7,714	14,543	増額	34,200	課長	0.80人	順調	門司西海岸地区では、潮流の関係から5万トンを超えるクルーズ船の受入は困難である。そこで、平成27年10月からひびきコンテナターミナルでのクルーズ船の受入を開始した。船社、代理店への働きかけを強化し、更なる寄港を増進させる。また、引き続きインセンティブ（曳船に対する補助）を行うとともに、寄港が決定した際には乗客のニーズに応じたおもてなしイベントで再寄港を促す。なお、受入を開始した「ひびきコンテナターミナル」は、7万トン未満のクルーズ船の受入しかできない。よって、10万トンを超えるクルーズ船にも対応できるように航行安全対策調査を行う予定としている。	順調	中国発着のクルーズ船寄港が急速に増加している。これらを取り込むために平成27年10月からひびきコンテナターミナルでの受入を開始した。しかしながら、大型クルーズ船については、受入のための航行安全対策調査が必要である。早期に調査を完了させ、大型クルーズ船にも対応できるようにしていきたい。

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	H26年度 局施策 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期 目標	金額 (千円)	職位					人数
IV-4-(3)-② にぎわいづくりによる集客交流産業の拡充	9	北九州港市民PR事業	総務課	広く市民に港や海に親んでもらい、北九州港の賑わいを創出するため、船舶の一般公開などを開催するほか、北九州港内で開催される花火大会を支援する。	安全・安心なイベントの実施	目標	—	—	—	—	—	—	—	—	—	課長	0.10 人	大変 順調	H28年度に向けて強化・見直した内容（課題に対する改善方法等）	H26年度局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容（課題に対する改善方法等）	
						実績	—	—														事故等のないイベント運営
						達成率	— %	— %														
				北九州港内におけるイベント参加者の満足度	目標	80%以上 (H26年度)	80 % 以上	80 % 以上	80 % 以上	—	継続	14,626	14,905	維持	8,650	係長	0.30 人	大変 順調	H28年度に向けて強化・見直した内容（課題に対する改善方法等）	H26年度局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容（課題に対する改善方法等）	
					実績	—	97 %															
					達成率	—	121.25 %															
				北九州港内で開催されるイベントの来場者数	目標	78 万人				—	継続	212,420	35,000	減額	4,400	職員	0.60 人	順調	H28年度に向けて強化・見直した内容（課題に対する改善方法等）	H26年度局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容（課題に対する改善方法等）	
					実績	76 万人																
					達成率	97.4 %																
V-1-(3)-② 産業拠点の整備	10	響灘及び新門司埋立地整備等事業	整備課	企業立地の円滑化を図るため、響灘東及び響灘西、並びに新門司臨海部土地造成事業計画に基づき、基盤整備等を行う。	企業立地の促進 (平成26年度以降は平成26年度からの累計)	目標	34 件	4 件	8 件	12 件	20件 (H26~30年度)	継続	212,420	35,000	減額	4,400	課長	0.10 人	順調	H28年度に向けて強化・見直した内容（課題に対する改善方法等）	H26年度局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容（課題に対する改善方法等）
						実績	23 件	4 件														
						達成率	67.6 %	100 %														

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	H26年度 局施策 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期 目標	金額 (千円)	職位				
V-1-(3)-③ 物流拠点の整備	11	北九州空港航空貨物拠点化事業	空港企画課	24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、貨物拠点化に向け、福岡県や苅田町などの自治体及び地元経済団体と協力して空港機能強化のための活動を行っている。また、空港機能強化の根拠となる大型貨物機の就航実績を示すため助成制度等を活用し、航空会社への路線誘致や貨物利用運送事業者への集貨促進、空港機能強化等を行う。	航空貨物取扱量	—	目標 16,000 t	17,000 t	17,000 t	21,000 t	30,000t (H32年度)	拡大	179,324	173,566	維持	16,475	課長 0.40人	やや遅れ	新規路線誘致や既存便の増便に対する誘致活動の強化や貨物の集貨促進のための仕組みづくりを目指す。	順調	貨物定期便数の増加を目指し、積極的な路線誘致や集貨促進を行う。また、空港での輸出入通関等の実施など、貨物取扱機能の強化を行う。 港湾施設の整備については、港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図るため、引き続き港湾施設の機能の維持・強化を行う。 また、老朽化が進む港湾施設について、今後も健全な状態を維持し利便性を向上させていくため、定期点検を着実に実施するとともに、適切な修繕を行う。
					実績 15,060 t	14,724 t									係長 0.70人						
					達成率 94.1 %	86.6 %										職員 0.65人					
	12	港湾施設整備事業（岸壁、物揚場、道路、橋梁等整備）	整備全課	岸壁や道路等の老朽化した港湾施設について、適切な改良を加え、機能の維持・強化を行うことにより、施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図る。	港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上	—	目標 単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上	継続	229,119	238,030	維持	5,150	課長 0.10人	順調	引き続き港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図るため、港湾施設の機能の維持・強化を行う。		
							実績 —	—									係長 0.10人				
							達成率 — %	— %									職員 0.40人				
	13	競争力のある港づくり関連事業（維持管理等）	港営課	老朽化が進む北九州港の港湾施設について、維持管理を効果的かつ効率的に行うことで、物流基盤の機能を維持し、北九州港の競争力確保を図る。	港湾施設の安全性確保及び利便性の維持・向上	—	目標 —	—	—	—	港湾施設の安全性確保及び利便性の維持・向上	—	220,745	237,650	増額	115,075	課長 1.05人	—	老朽化が進む港湾施設について、今後も健全な状態を維持していくため、定期点検を着実に実施するとともに、適切な修繕を行う。		
							実績 —	—									係長 3.40人				
							達成率 —	—									職員 9.20人				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費（目安）			H26年度 事業 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H26年度 局施策 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)			
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期 目標	金額 (千円)	職位					人数		
V-1-(4)-② 再生可能エネルギー・基幹エネルギーの創出拠点の形成	14	響灘洋上風力発電拠点化推進事業	立地促進課	港湾空港局では、響灘地区のポテンシャルを活かし、平成22年度より風力発電関連産業の集積を図る『グリーンエネルギーポートひびき』事業を進めており、本事業の更なる推進にあたっては、今後拡大が見込まれる洋上風力発電に対応した環境整備が急務である。そこで、響灘洋上ウインドファームの形成をインセンティブに関連産業の集積を進め、国内における“風力発電関連産業の総合拠点”の形成を目指す。	風力発電関連施設の立地	—	目標		洋上風力関連施設の適地設定	洋上風力関連施設の適地設定	公募実施	—	継続	10,000	5,000	減額	19,050	課長	0.20 人	順調	平成28年度実施予定の公募に向けての具体的事務の強化、見直しを行う。また、引き続き関係者等との連携を図りながら、響灘地区での更なる産業集積を目指して事業を推進していく。	順調	引き続き関係者等との連携を図りながら、響灘地区での更なる産業集積を目指して事業を推進していく。	
							実績		1社の立地										係長					0.70 人
							達成率		— %										職員					1.30 人
V-2-(1)-① 北九州空港の機能拡充	15	北九州空港航空貨物拠点化事業	空港企画課	24時間運用や税関・検疫空港の指定など、北九州空港の特性を活かし、開港以来、貨物拠点化に向け、福岡県や苅田町などの自治体及び地元経済団体と協力して空港機能強化のための活動を行っている。また、空港機能強化の根拠となる大型貨物機の就航実績を示すため助成制度等を活用し、航空会社への路線誘致や貨物利用運送事業者への集貨促進、空港機能強化等を行う。	航空貨物取扱量	—	目標	16,000 t	17,000 t	17,000 t	21,000 t	30,000t (H32年度)	拡大	179,324	173,566	維持	16,475	課長	0.40 人	やや遅れ	新規路線誘致や既存便の増便に対する誘致活動の強化や貨物の集貨促進のための仕組みづくりを目指す。	やや遅れ	・貨物定期便数の増加を目指し、積極的な路線誘致や集貨促進を行う。また、空港での輸出入通関等の実施など、貨物取扱機能の強化を行う。	
							実績	15,060 t	14,724 t									係長	0.70 人					
							達成率	94.1 %	86.6 %									職員	0.65 人					
	16	北九州空港新規路線就航促進事業	空港企画課	北九州市民の利便性向上のため、国内・国際定期便の新規就航及び既存路線の定着を図ることを目標に、路線誘致・利用促進活動を行う。	国際定期路線の維持・拡大	—	目標	1 路線	1 路線	1 路線	1 路線	—	拡大	46,400	154,880	増額	33,600	課長	0.40 人	やや遅れ	福岡空港の混雑空港指定や他空港との誘致競争の激化といった状況を受け、航空会社等へのインセンティブを充実させることにより、路線誘致・利用促進を強力に進める。	やや遅れ	・福岡空港の混雑空港指定や他空港との誘致競争の激化といった状況を受け、航空会社等へのインセンティブを充実させることにより、路線誘致・利用促進を強力に進める。	
							実績	1 路線	0 路線									係長	1.40 人					
							達成率	100.0 %	0 %									職員	2.00 人					
国内定期路線の維持・拡大	—	目標	1 路線	1 路線	1 路線	3 路線	—	拡大	46,400	154,880	増額	33,600	係長	1.40 人	やや遅れ	福岡空港の混雑空港指定や他空港との誘致競争の激化といった状況を受け、航空会社等へのインセンティブを充実させることにより、路線誘致・利用促進を強力に進める。	やや遅れ	・福岡空港の混雑空港指定や他空港との誘致競争の激化といった状況を受け、航空会社等へのインセンティブを充実させることにより、路線誘致・利用促進を強力に進める。						
		実績	1 路線	2 路線																				
		達成率	100.0 %	200.0 %																				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H26年度 局施策 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期 目標	金額 (千円)	職位					人数
V-2-(1)-② 港湾の国際競争力の強化	17	北九州港集貨航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	99,979千t (H23年)	目標 前年 (9,884万t)比増加	実績 10,053万t	前年比増加	10,001万t	前年比増加	109,000千t (H31年)	継続	68,179	66,870	維持	55,500	課長 1.00人 係長 1.40人 職員 4.00人	順調	引き続き、船社・荷主に対し、プロモーションや日常の営業活動等により、北九州港の利用を働きかけ、新規航路の開設を図る。		
	18	国際RORO航路誘致事業	物流振興課	完成自動車の輸出や自動車部品輸入等のシームレス物流に必要な国際RORO航路を誘致し、臨海部における自動車関連産業等の物流拠点化の促進および北九州港の取扱量拡大を図る。	国際RORO航路数	3航路 (H26年)	目標	実績	4航路 (1航路増)	5航路 (1航路増)	6航路 (H29年)	—	13,200	10,000	減額	4,825	課長 0.05人 係長 0.20人 職員 0.30人	—	引き続き、船社・荷主に対し、プロモーションや日常の営業活動等により、北九州港の利用を働きかけ、新規航路の開設を図る。	順調	引き続き、官民一体となったポートセールス活動を通じて、北九州港の利用促進を図る。 また、荷役作業の安全性確保と効率化を図るため、引き続きコンテナヤード等の整備を実施。	
	19	太刀浦埠頭用地整備事業	整備保全課	太刀浦コンテナターミナル内の舗装の損傷が著しい箇所について補修を行うとともに、未舗装の荷さばき地、野積場について舗装を行うことで、荷役作業の安全性確保と効率化を図る。	荷役作業の安全性確保と効率化	—	目標 単年度目標設定なし	実績 —	単年度目標設定なし	—	単年度目標設定なし	コンテナヤード等の整備 (H31年度)	継続	200,000	200,000	維持	3,650	課長 0.10人 係長 0.10人 職員 0.20人	順調	引き続き、荷役作業の安全性確保と効率化を図るため、コンテナヤード等の整備を実施する。		

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善														
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度 予算額 (千円)	H28年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	H26年度 局施策 評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）								
					指標名等	現状値 (基準値)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度					中期 目標	金額 (千円)	職位					人数							
V-2-(1)-③ 環境配慮型物流の推進	20	北九州港集貨航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	99,979千t (H23年)	目標	前年 (9,884万t)比増加	前年比増加	前年比増加	前年比増加	109,000千t (H31年)	継続	68,179	66,870	維持	55,500	課長	1.00人	順調	引き続き、船社・荷主に対し、プロモーションや日常の営業活動等により、北九州港の利用を働きかけ、新規航路の開設を図る。	順調	引き続き、官民一体となったポートセールス活動を通じて、北九州港の利用促進を図る。						
							実績	10,053万t	10,001万t									係長	1.40人										
							達成率	101.7%	99.5%									職員	4.00人										
V-3-(2)-① 都市基盤・施設の有効活用	21	北九州空港新規路線就航促進事業	空港企画課	北九州市民の利便性向上のため、国内・国際定期便の新規就航及び既存路線の定着を図ることを目標に、路線誘致・利用促進活動を行う。	国際定期路線の維持・拡大	—	目標	1路線	1路線	1路線	1路線	—	拡大	46,400	154,880	増額	33,600	課長	0.40人	やや遅れ	福岡空港の混雑空港指定や他空港との誘致競争の激化といった状況を受け、航空会社等へのインセンティブを充実させることにより、路線誘致・利用促進を強力に進める。	やや遅れ	福岡空港の混雑空港指定や他空港との誘致競争の激化といった状況を受け、航空会社等へのインセンティブを充実させることにより、路線誘致・利用促進を強力に進める。 北九州港集貨航路誘致については、引き続き、官民一体となったポートセールス活動を通じて、北九州港の利用促進を図る。						
							実績	1路線	0路線									係長	1.40人										
							達成率	100%	0%									職員	2.00人										
							目標	1路線	1路線	1路線	3路線							—	継続					68,179	66,870	維持	55,500	課長	1.00人
							実績	1路線	2路線																			係長	1.40人
							達成率	100%	200%																			職員	4.00人
VI-3-(1)-② 適正な廃棄物の処理	23	響灘東地区処分場整備事業	整備保全課	北九州港内の航路・泊地の整備及び維持から発生する浚渫土砂、市民生活や市内中小企業の産業活動から発生する廃棄物等を最終的に処分する海面処分場（響灘東地区処分場）を整備する。	廃棄物処分場の確保	—	目標	—	—	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	廃棄物の受入開始 (H34年度)	継続	59,500	1,691,000	増額	39,500	課長	0.50人	順調	平成28年度から工事に着手するため、今後は目標年次までの完成を目指し、計画的な事業の進捗を図る。	順調	市民生活に不可欠な廃棄物処分場の整備事業であり、確実に事業を進めていくことが重要である。						
							実績	—	—									係長	1.50人										
							達成率	—%	—%									職員	2.50人										
					土砂処分場の確保	—	目標	—	—	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	浚渫土砂の受入開始 (H35年度)	継続	59,500	1,691,000	増額	39,500	課長	0.50人										
							実績	—	—									係長	1.50人										
							達成率	—%	—%									職員	2.50人										

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H27年度	H28年度	事業費の増減	人件費（目安）			H26年度 事業評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	H26年度 局施策評価	H28年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）				
					指標名等	現状値 （基準値）	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度		中期 目標	予算額 （千円）		予算額 （千円）	金額 （千円）	職位					人数			
VI-4-(1)-② 身近に自然を感じる都市づくり	24	新・海辺のマスタープラン推進事業	開発課	H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」における2つの目標（「利用できる海辺を増やす」「親しまれる度合いを高める」）を実現するための様々な取り組みについて、その検証及びプランの進捗管理を行う。	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合	35.6% (H23年度)	目標 平成24年度 (37.5%) 比増	実績 33.6 %	平成25年度 比増	52.7 %	平成26年度 比増	平成27年度 比増	75% (H32年度)	継続	1,642	1,563	維持	6,940	課長 0.06人	係長 0.25人	職員 0.50人	順調	「新・海辺のマスタープラン」は、社会経済情勢の変化や市民意識の変化を踏まえて計画の見直しを行う必要があるため、市民アンケートを実施し、ニーズを把握する。	順調	市民に親しまれる水際線づくりでは、さまざまなニーズに応える多様な水際線の利用を目指している。そのために市民ニーズの把握や市民に安らぎや憩いの空間を提供する緑地の整備を進める。
VI-4-(1)-③ 市民とのふれあいの推進	25	新・海辺のマスタープラン推進事業	開発課	H23年5月に策定した「新・海辺のマスタープラン」における2つの目標（「利用できる海辺を増やす」「親しまれる度合いを高める」）を実現するための様々な取り組みについて、その検証及びプランの進捗管理を行う。	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合	35.6% (H23年度)	目標 平成24年度 (37.5%) 比増	実績 33.6 %	平成25年度 比増	52.7 %	平成26年度 比増	平成27年度 比増	75% (H32年度)	継続	1,642	1,563	維持	6,940	課長 0.06人	係長 0.25人	職員 0.50人	順調	「新・海辺のマスタープラン」は、社会経済情勢の変化や市民意識の変化を踏まえて計画の見直しを行う必要があるため、市民アンケートを実施し、ニーズを把握する。	順調	市民に親しまれる水際線づくりでは、さまざまなニーズに応える多様な水際線の利用を目指している。そのために市民ニーズの把握や市民に安らぎや憩いの空間を提供する緑地の整備を進める。
VII-2-(2)-① 充実した物流基盤を活用した物流振興	26	北九州港集貨航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	99,979千t (H23年)	目標 前年 (9,884万t) 比増加	実績 10,053 万t	前年比増加	10,001 万t	前年比増加	前年比増加	109,000千t (H31年)	継続	68,179	66,870	維持	55,500	課長 1.00人	係長 1.40人	職員 4.00人	順調	引き続き、船社・荷主に対し、プロモーションや日常の営業活動等により、北九州港の利用を働きかけ、新規航路の開設を図る。	順調	引き続き、官民一体となったポートセールス活動を通じて、北九州港の利用促進を図る。
VII-3-(2)-③ 九州地域の空港の連携	27	【施策評価のみ】九州地域の空港の連携	空港企画課	【施策の内容】北九州空港の集客力と来訪者の回遊性を向上させるため、九州地域の各空港との連携強化を図る。	-	-	目標 -	実績 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	課長 -人	係長 -人	職員 -人	-	-	順調	福岡県とも連携しながら、福岡空港との役割分担と相互補完を進めていくほか、九州地域の他空港との連携を検討する。